

日々是Oracle APEX

Oracle APEXを使った作業をしていて、気の付いたところを忘れないようにメモをとります。

2021年10月8日 金曜日

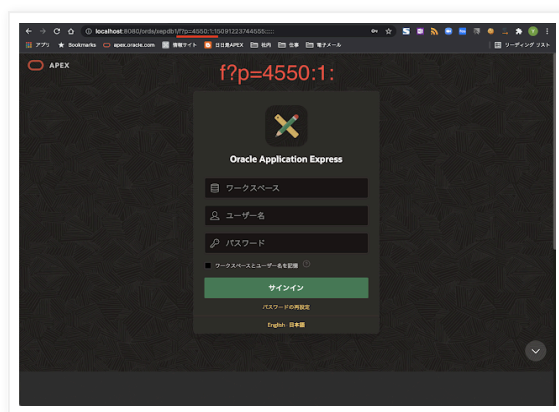
APEXの標準ツール自体がAPEXのアプリケーションであることについて

Oracle APEXの環境を管理する、例えばワークスペースを作成したり、ユーザーを登録したりするにはAPEXが提供している管理ツールを使います。また、アプリケーションを作成するには主にアプリケーション・ビルダーを使用します。

以前の記事に従って作成した環境を例にとって説明します。以下の作業を通常の開発作業で使っているインスタンスで行うことはお勧めしません。

環境作成直後にAPEXにアクセスすると、以下の宛先にリダイレクトされます。

`http://localhost:8080/ords/xepdb1/`

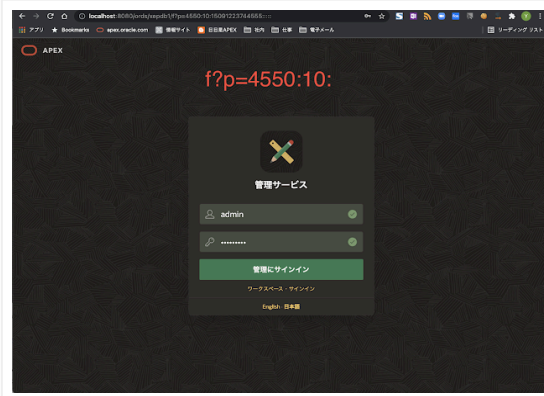


URLの末尾がf?p=4550:1:となっています。Oracle APEXのURLの構造はマニュアルの

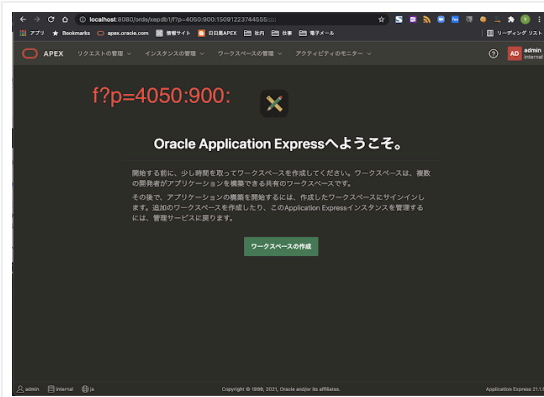
3.7 URL構文の理解

に解説のあるとおり、引数pの1番目がアプリケーションIDで、2番目がページ番号になります。つまり、上記の画面は、アプリケーションIDが4550のアプリケーションに含まれるページ番号1のページが表示されていることになります。

管理サービスへのサインインでは、アプリケーションID4550、ページ番号10が開きます。

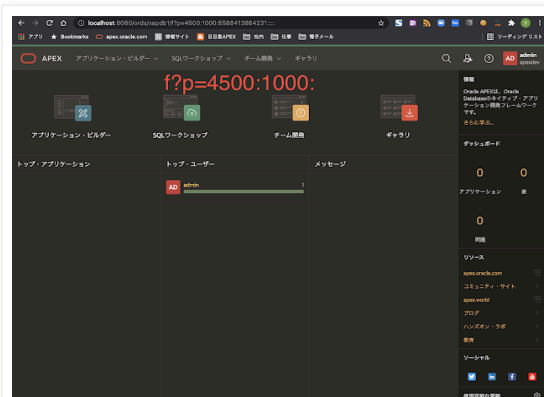


新規ワークスペースの作成を案内するページは、**アプリケーションID4050、ページ番号900**です。

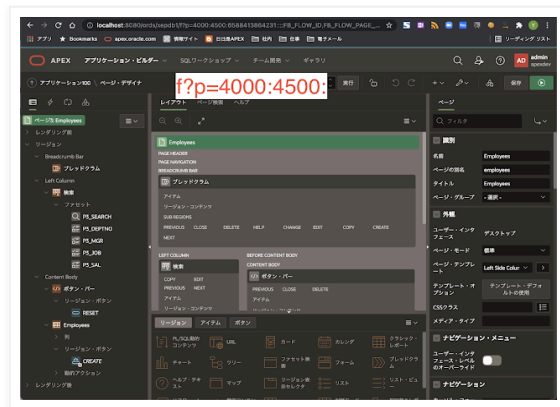


このように開発者によって作成されたアプリケーションと同じく、Oracle APEX標準の管理ツールもアプリケーションIDとページ番号を持っています。

Oracle APEXの開発ツールも同様です。**アプリケーション・ビルダー**の先頭画面は、**アプリケーションIDが4500、ページ番号は1000**です。



もっともよく使われているページ・デザイナーの画面はアプリケーションIDは4000、ページ番号は4500です。

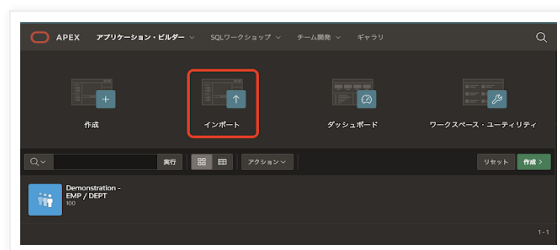


Oracle APEXに組み込まれているアプリケーションは、APEXのインストールに使用するアーカイブのbuilderディレクトリ以下にSQLファイルとして保存されています。

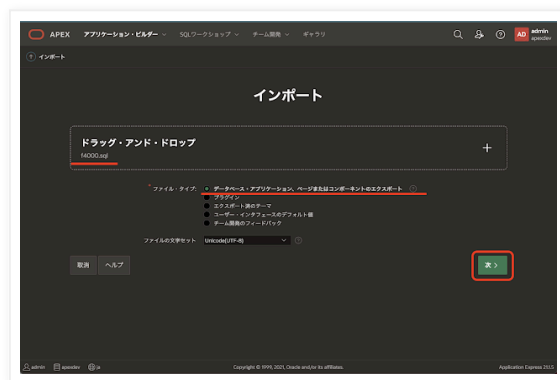
```
$ ls
de          f4020.sql  f4300.sql  f4500.sql  f4650.sql  f4850.sql  it  pt-br
es          f4050.sql  f4350.sql  f4550.sql  f4700.sql  f4900.sql  ja  zh-cn
f4000.sql  f4155.sql  f4411.sql  f4600.sql  f4750.sql  fr          ko  zh-tw
$
```

ページ・デザイナのページがどのように作られているのかを確認してみます。builder以下の**f4000.sql**を手元にコピーします。このファイルは通常のアプリケーションと同じ手順で、ワークスペースにインポートすることができます。

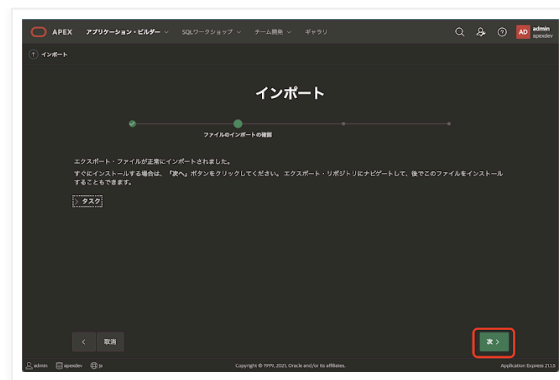
インポートを実行します。



インポートするファイルとして**f4000.sql**を選択し、**ファイル・タイプ**は**データベース・アプリケーション**、**ページまたはコンポーネントのエクスポート**を選び、次に進みます。

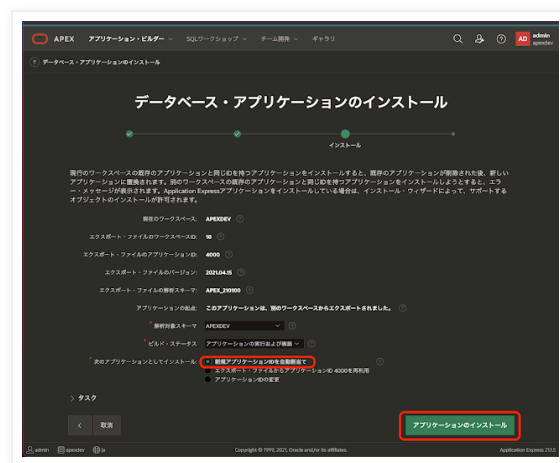


確認画面が表示されます。次に進みます。ファイルサイズが大きい(20MB強)ため、少々時間がかかります。

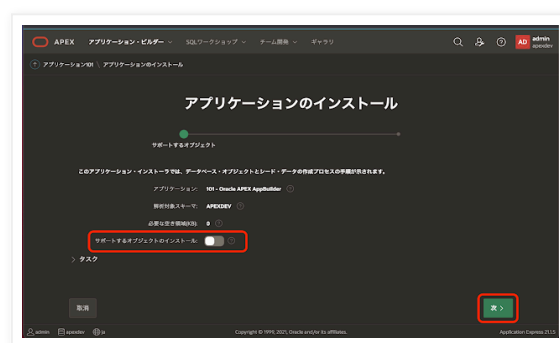


アプリケーションのインストールをクリックします。次のアプリケーションとしてインストールはデフォルトの新規アプリケーションIDを自動割当てのままにします。アプリケーションID4000はOracle APEXをインストールした時点で使用されているので再利用することはできず、アプリケーションも置き換えることはできないので選択してはいけません。

1000ページ以上あるアプリケーションなので、インストールには時間がかかります。

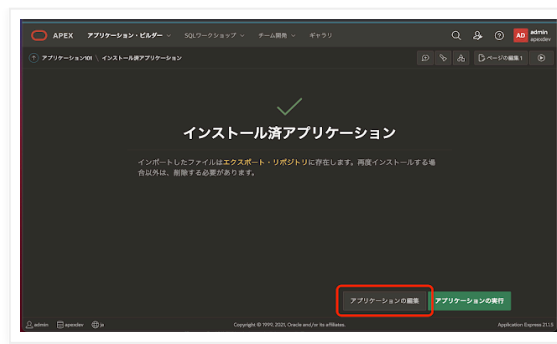


アプリケーション・ビルダーが必要としているオブジェクトは作成済みであり、また、DBA権限がないとインストールできないものばかりです。**サポートするオブジェクトのインストールは必ずOFFにして、次に進みます。**

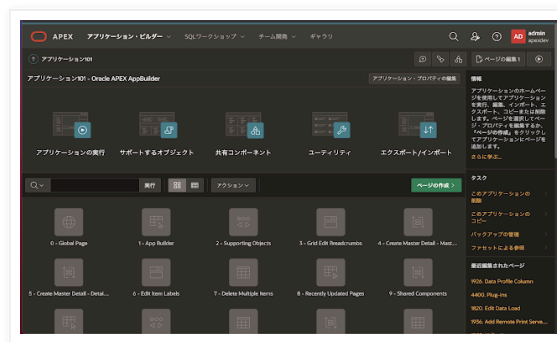


アプリケーションがインストールされました。APEXの管理ツールや開発ツールは特殊なアプリケーションなので、**アプリケーションとして作成できても実行はできません**。アプリケーションの編集を開いて、ページ・デザイナのページがどのような実装になっているかを確認します。

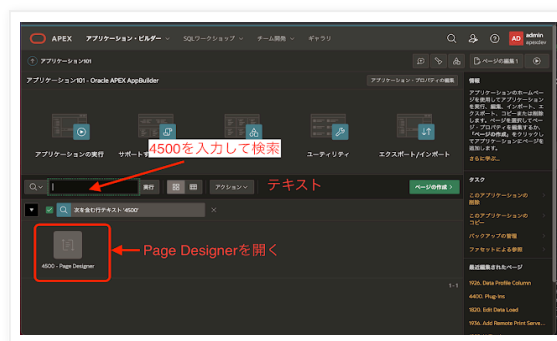
アプリケーションの編集をクリックします。



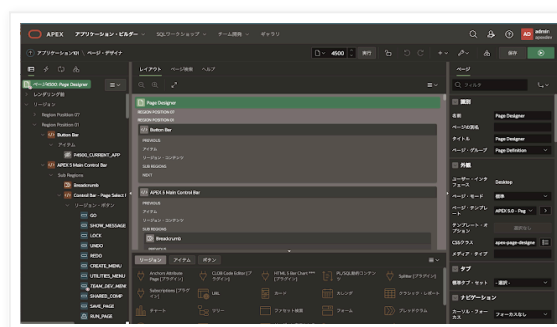
アプリケーション・ビルダー（のコピー）がアプリケーション・ビルダーで開かれます。



ページ・デザイナのページ番号は4500なので、4500番のページを探して開きます。



ページ・デザイナのページ（のコピー）がページ・デザイナで開かれます。



ページ・デザイナ自体がどのように実装されているのか、ページ・デザイナから確認することができます。



builder以下に含まれているOracle APEX標準のツールについては、このような手順で実装を確認することができます。

実際にはOracle APEXの開発ツールや管理ツールの実装を確認しなければならないケースは少ないでしょう。それでも、Oracle APEXの開発ツールや管理ツールもOracle APEXのアプリケーションである、と理解していると負荷の見積もりの助けになります。

アプリケーション・ビルダーやページ・デザイナーを超えるほど複雑な画面構成のアプリケーションをユーザーが作成するケースはあまりないと思います。Oracle APEXのアプリケーションで発生する負荷はユーザーが定義したSQLまたはPL/SQLの実行(データ・ソースとして表を指定しても、それは実際には**SELECT * FROM 表**の検索が行われます)と、その結果のレンダリング(HTMLのテンプレートに埋め込みHTMLページを生成する)になります。

Oracle APEXでアプリケーションの開発作業がそれほどストレスなく行えているのであれば、ユーザーのアプリケーションであっても、ページ・レンダリングのパフォーマンスに問題が発生する可能性は低いと想定できます。それ以外はSQLの実行にかかる時間なので、扱っているデータや、ユーザーが記述したSQL、PL/SQLのコードに依存する部分が大きくなります。

今回の記事は以上です。Oracle APEXのアプリケーション作成の参考になれば幸いです。

完

Yuji N. 時刻: 12:06

共有

<

ホーム

>

ウェブ バージョンを表示

自己紹介

Yuji N.

日本オラクル株式会社に勤務していて、Oracle APEXのGroundbreaker Advocateを拝命しました。こちらの記事につきましては、免責事項の参照をお願いいたします。

詳細プロフィールを表示

Powered by Blogger.